

チャの有機栽培における除草作業の効率化と オーガニックてん茶の品質向上

農業技術振興センター農業革新支援部

【普及活動のねらい・対象】

近年、オーガニック茶の需要拡大に伴い、県内のオーガニック茶の栽培面積が拡大してきました。しかし、除草作業に手間がかかるなどにより、栽培面積は頭打ちになっている状況です。また、一番茶を用いたオーガニックのてん茶は茶商からの引き合いが強いものの、覆い下適性の低い品種「やぶきた」が中心に栽培されており、高値の取引が実現できていません。

そこで、今年度はオーガニック茶生産指向農家を対象とした新たな除草技術の効果の検証とオーガニックてん茶の品質向上技術の実証を行いました。

【普及活動の内容】

(1) 除草技術の実証と周知

除草作業の効率化を目的に、2 経営体でそれぞれ導入された温水除草機と火炎除草機について、除草効果や作業効率性について調査しました。両技術とも通常の刈払機による除草よりも少ない回数に抑えることができ、抑草効果も高いことが分かりました。これら新技術の効果等については、研修会を通じ情報提供を行いました。



写真1 研修会での除草機の実演

(2) オーガニックてん茶の品質向上技術の実証

オーガニック茶生産指向農家の1 経営体を対象に、一番茶で二段階被覆法を実証しオーガニックてん茶の品質向上を図りました。



写真2 二段階被覆の様子

【普及活動の成果】

新しい2つの除草技術の効果を明らかにし、研修会を通じ対象農家に情報提供を行ったことで、新たな技術の導入に対して生産者の意欲の向上が見られました。

二段階被覆法により、オーガニックてん茶の品質は荒茶成分が向上し、単価は100 円/kg 向上しました(3,350 円/kg→3,450 円/kg)。しかし、二重被覆の重みにより新芽が折れることで収量が減収することや労働力の増加等まだまだ課題が多く、技術の定着には至りませんでした。

今後も除草技術の向上、てん茶を中心とした品質の向上を図り、オーガニック茶生産技術の向上、普及拡大に努めていきます。

◎対象者の意見

研修会では、各種除草機の実用性と持続効果について知れて参考になった。導入されている生産者から実際に意見を聞くことができ、使用感も触れることができてよかった。(生産者)